

野菜畑作生産情報 第2号（要約版）

平成28年5月19日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

◎小麦の出穂期が早まっているので、赤かび病の適期防除に努めましょう！
◎野菜の生育が早まっているので、適正管理を徹底しましょう！

○小麦

- 1 出穂期は、平年より5～7日早まっている。
- 2 うどんこ病は、止葉直下葉に病斑の発生が見られたら、直ちに薬剤散布を行う。
- 3 赤かび病は、開花始めから開花期に1回目、その7日後に2回目の薬剤散布を行う。
- 4 湿害防止のため、ほ場の排水に努める。
- 5 収穫期が早まることが予想されるため、6月下旬以降の収穫に備える。

○にんにく

- 1 りん片分化期が平年より早く、今後の生育も早まる見込み。
- 2 春腐病は、降雨前の予防防除を徹底する。さび病は、効果持続期間が長い薬剤を散布して、病勢の進展を抑える。
- 3 抽だいが始まったら、とうを摘み取り、球の肥大を促す。

○ながいも

- 1 基肥は、萌芽期施肥とし、萌芽が50%程度の時期に行う。
- 2 普通栽培の植付適期は5月中旬～6月上旬なので、計画的に植え付ける。切りいもは5月下旬からとし、切断後早めに植える。

○春夏にんじん

- 1 生育は平年を上回っている。
- 2 トンネル栽培では、本葉5～6枚時までに、1本立てとする。トンネル開閉による温度管理を徹底し、6月上旬（平均気温15℃以上）をめどに除覆する。追肥は、本葉5～6枚時に行う。
- 3 べたがけ栽培では、本葉3～4枚時までに1本立てとする。除覆は本葉5～6枚時を目安とするが、この時期に低温が予想される場合は、本葉7枚頃まで除覆せず保温に努める。追肥は、本葉3～4枚時と5～6枚時に行う。

○春だいこん

- 1 生育は平年を上回っている。
- 2 根部の肥大状況を確認しながら適期に収穫する。
- 3 キスジノミハムシの発生が見られるほ場では、トンネル除去後、早めに防除する。

○ばれいしょ

- 1 萌芽期が平年より早く、生育は平年を上回っている。
- 2 1回目の中耕・培土は、草丈10cm頃を目安に行い、2回目は、着蕾期に窒素成分で10a当たり4～5kg追肥してから行う。

○メロン

- 1 定植は平年より3～5日遅れている。活着は良好で、生育は概ね順調である。
- 2 トンネル内温度は15～30℃を目標に換気し、雌花の確保と生育促進に努める。
- 3 蜂の動きが活発でないときは人工交配を行う。また、不順天候の場合はホルモン処理を併用する。

◎メロンやいちごなどの園芸作物で、花粉交配用ミツバチが確保できない場合には、各地域県民局地域農林水産部まで御相談ください。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報 (http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報検索システム (<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

◎春の農作業安全運動を展開中です（4月1日～5月31日）

例年、4～5月は、農作業事故が多くなる時期となっています。

- 1 70歳以上の方による農作業事故が増加しています。農作業は焦らず、急がず、慎重に！
- 2 機械操作や高所作業等においては、ヘルメットを着用しましょう！
- 3 万一の事故に備えて、労災保険や農機具共済等に加入しましょう！



報道機関用提出資料	
担当課	農産園芸課 野菜・畑作物振興グループ
担当者	井澤 主査
電話番号	直通 017-734-9481 内線 5078
報道監	農林水産部 津島 農商工連携推進監（次長） 内線 4966